

## 産業発展論（川 端）演習

1 テーマ 世界と日本を動かす産業の構造とダイナミズムを分析する

2 テキスト 未定。まず日本経済に関する本を材料に現代資本主義論の考え方を学び、それから産業研究の専門書を読みます。参考までに、2009年度は最初に森武磨ほか『現代日本経済史』を読み、続いて今井健一・丁可編『中国 産業高度化の潮流』と日本産業に関する論文数本を比較しながら読みました。

3 趣 旨 (1) 企業・業界分析ができるようになろう！ (2) プレゼンテーションとレポート作成ができるようになろう！ (3) 根拠のある自信をもって世界を語れるようになろう！

4 募集人員 4月進級者、編入学生、10月進級者あわせて10名

5 参加条件

①世界と日本の情勢に敏感であることが何より必要です。②無断欠席絶対不可。③ワード、エクセル、パワーポイント、パソコンのemailを使います。ゼミに入ってから練習してもまにあいます。④川端担当の「企業論」も受講してください。⑤経済数学は必要ありません。⑥当ゼミは経済学ベースですが、経営学と重複する部分も少なくありません。

6 選考方法（4月進級予定者）

第1, 2次募集では、計9名まで無条件で受け入れます。9名を超えたときだけ選抜を行います。第3次募集では、個別に面談を行って受け入れ可否を決めます。

7 運営方針

\*当ゼミは定性的分析、ケース・スタディが中心です。ひとつひとつの企業の行動や業界の出来事の意味を探ること、個別のケースと、それをとりまく世界、アジア、日本社会の動きとの関係を考えることが大切です。

\*当ゼミではミクロ経済学、マルクス経済学、経営学のいずれをベースにしても議論できますが、このうち一つくらいは、議論で使えるように基礎をよく身につけてください。

\*ゼミの内容は、以下の3つが中心です。①テキスト輪読。レポーターが報告し、全員で議論。②各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論。③セミナーや見学旅行の企

画や記録作成の会議。

\*調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に掲載します。発行記録はホームページを参照。学生の研究計画を書籍購入等で支援します。

\*前任教授時代から40年以上続くOB・OG会があり、年に1回「現代産業研究会」を行っています。各界で活躍されている卒業生や研究者の講演を聞き、交流できます。

\*様々な企業を年1回以上見学します。2008年度は産業技術記念館、アイシン精機、トヨタ自動車でした。

## 8 担当教員の主要な研究業績

川端望『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年。大野健一・川端望編著『ベトナムの工業化戦略』日本評論社、2003年、などがあります。主に東アジアの鉄鋼業について研究しており、日本、中国、タイ、ベトナムなどで実態調査を行っています。ゼミや授業では様々な産業を扱います。

9 指導教員が薦める本 自分が面白いと思った本を読んでもください。なお、2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出しますから、それも読んでください。

10 「ゼミ見学」の可否 歓迎。金曜日14時40分に第8演習室へ来てください。途中退室・入室も可とします。

11 10月進級者に対する特記事項 なし。

## 12 その他

教員のウェブサイトを見て、自分の関心とゼミの予想される内容を比較してみてください。メールによる問い合わせも受け付けます。kawabata@econ.tohoku.ac.jpです。

演習論文で研究したい業種・企業は自由に選べます。昨年度のテーマは、「わが国におけるオーケストラの経営構造分析」「仙台の百貨店はどのようにして競争優位を築くのか」「デジタル音楽と音楽業界の変貌」でした。

就職先実績はメーカー（自動車、重機、鉄鋼、素材、化学、エレクトロニクス）、金融・証券、不動産、テレビ局、コンサル、公務員など多岐にわたっています。

現在のゼミ生は10名（4年生×6、3年生×4）＋研究生。ゼミ生の懇親会も盛んですが、飲酒を強要することはありません。

揺れ動く世界と日本を、いっしょに見つめましょう。